

日本キャリア教育学会

令和3年度第2回研究推進委員会企画講習会実施報告

共催 研究推進委員会，近畿地区部会

第2回研究推進委員会企画講習会の報告です。

2021年9月26日（日）13:00～16:00、オンラインによる令和3年度第2回研究推進委員会企画講習会を研究推進委員会，近畿地区部会の共催で開催しました。今回は，学会誌編集委員会委員長を務められたご経験のある，現倫理委員会委員長の若松養亮（滋賀大学）をお招きし，「投稿論文の書き方とコツ ～量的研究に着目して～」というテーマでお話いただきました。今回の講習会は，参加案内募集数時間で30名の定員をオーバーするほどニーズが高いもので，参加者46名（話題提供者・コーディネーター含）という大盛況の講習会となりました。

講習会参加者のアンケートには「投稿論文の執筆にあたり大事な点を改めて整理できました。」「ジャーナルへの挑戦という意味で，これまでなかなか高い壁だと自己暗示していましたが，本日のお話を通じて，投稿に対するポイントが明確になり，挑戦していこうという意思が強固になった。」「投稿査読論文の査読の仕方について理解できました。私も現在論文を執筆中で投稿論文に挑戦しようと思いました。」「学校現場の実践研究から投稿論文にするためには，多面的で俯瞰的な発想が実践前から必要だと分かりました。」「具体的な内容で大変わかりやすかったです。ただ，ハードルの高さを再認識してしまいました。」「投稿論文を書き上げていく真の意義を教えてくださいました。いつかチャレンジできるように研鑽に努めて参ります。」といった論文投稿に関わるものが多く，投稿への意欲を高めた方，ハードルの高さを感じた方等，様々なご感想がありました。

また，「実際に研究を進めていく上で留意すべき点を段階的にご教示いただき，特に後半の結果部分，疑似相関の話やSEMに関する真偽など，今後研究活動をしていく中で大切な視点を学ばせていただきました。」「発表資料のPPはわかりやすくまとめられて，時間を要されたかと，教科書がわりに印刷して今後も利用したいと思います。ありがとうございます。」「論文の『最重要点』，べからず集が特に役立ちました。また，研究計画の立て方における注意点，統計手法についての説明も，非常に勉強になりました。講義後の，学会誌編集委員の先生方のざっくばらんなトークも，興味深かったです。」「データの有意性について，具体的にわかりやすくご説明いただいた点は，今後の論文執筆に役立てることができると思います。資料もお話もわかりやすく，若松先生には長時間のご講義に感謝いたします。効果量の例のシートの説明を聞けなかったのが残念です。」といった研究に関わるものもあり，効果量検定など統計分析の新たな潮流をお感じになった方もいらっしゃいました。

他方，「自分の理解の再確認，大学院生や卒論学生への指導ポイントの両面から役立つお話でした。」「自分自身の研究についても有意義でしたが，ゼミの学生への指導の際にとっても役立つお話でした。」「説明が丁寧で，具体的だった。」といった学生指導に関わる内容や「丁寧に親切なご講義をありがとうございます。若松先生の優しい言葉の中から熱意と温かい心の教育を感じました。」「豊富な資料と具体例を取り上げてくださりありがとうございました。」「論文を執筆するにあたって「わかっているつもり」でも改めて確認することも大切なこと，また，新しい手法や考え方も学ぶことも必須だと考えています。そういった意味でもこのような講習会は意義があるので，ぜひ継続していただきたいと思います。」といった本講習会に関わる感想をいただき，今後の研究推進委員会企画講演会を検討する上で，多くの示唆をいただきました。

皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

研究推進委員会委員長 山田智之